

国際協力



2015 夏号

No.44 2015.7.1

JICA駒ヶ根



特集・青年海外協力隊事業50周年記念	1~3	JICAボランティア春募集「一日体験入隊」	4
協力隊員現地レポート	2	帰国ボランティア紹介	5
イベントレポート	3	長野県出身新ボランティア	5
中小企業海外展開支援	4	インフォメーション	6
草の根技術協力事業	4	新スタッフ紹介	6
JICA長野 デスクの窓から	4		

特集 青年海外協力隊事業50周年記念

松本市の国際交流・協力、多文化共生へのとりくみ、 そして青年海外協力隊・JICA駒ヶ根への期待

松本市 菅谷 昭市長と駒ヶ根訓練所 仁田 知樹所長による特別対談

■松本市と協力隊の関わり

仁田所長: 青年海外協力隊事業が1965年に発足してからの50年間で88ヶ国に4万人が派遣されました。今現在も約2,000人が71ヶ国で活動中です。これまでに78名もの松本市ご出身の方々が協力隊員とられました。(4/30現在)ひとつの市からこれだけの人数が行っていただいているのは大変ありがたいことです。古くは事業開始2年後から松本市ご出身者が派遣されています。現在も市職員として現職参加されている山本あゆみさん(派遣国: エクアドル、職種: 青少年活動)がいらっしゃいますが、市長はどのような思いで山本さんを送り出されたのでしょうか。



菅谷市長: 協力隊50周年、おめでとうございます。78人とは結構な数ですね。職員が海外へ派遣されるということはとても良いことだと思っています。平成10年に条例を設けて市職員がJICA事業に参加できるようになり、これまでに現在派遣中の山本さんと5名となります。行く際は自分が身につけてきた技術やノウハウを現地で活かしたい、という強い思いが必要ですが、山本さんは子ども育成課で青少年育成に関わっており、子どもたちのために役立ちたいという気持ちがあったので、ならば経験を活かしてしっかりやってきなさいと。帰国後の活躍も期待しています。

仁田所長: 山本さんは駒ヶ根訓練所で派遣前の訓練を受けましたが、非常に模範生で、我々は胸を張って送り出しました。

菅谷市長: そう言っていただくとありがたいです。私は職員に3つの視点: 地域的視点、国家的視点、そしてグローバルな視点、を持ってほしいと言っています。地域の事は大事ですが、国際的な視点も必要です。

■帰国隊員への期待: 松本“地球市民”としてできること。

仁田所長: 市長自らがグローバル化への音頭を取っていらっしゃるということ、素晴らしいですし、我々にとって大変ありがたいことです。これまでに協力隊として派遣された市の職員5名は途上国での2年間、異文化の中に飛び込んで生活し、活動し、語学力を身につけ、貴重な経験をしてきていると思います。彼ら

に期待することはどのようなことでしょうか。

菅谷市長: (途上国は) 歴史、文化、風土など、全く違うところでしょうから、お金に換えられない貴重な経験です。それをぜひ活かしてほしいですね。私はよく職員に「口を動かす前



松本城をバックに握手をする菅谷市長(左)と仁田所長

に体を動かせ。その前に心を動かせ。」と言います。自分が経験した5年半(ベラルーシ共和国でのチェルノブイリ原発事故後の医療支援活動期間)の、言葉も通じず、日本人もいないところで苦労した実体験に基づいた話ですのでよく聞いてくれます。心と心が通じ合う会話はよほど言葉ができないと難しい。ならば人の心を動かす、人の心に響くような行動が大事だよね、と。よく「地球市民」ということばを使うのですが、これはJICAの本旨ではないでしょうか。僕らは偶然日本に生まれただけで、みんな同じ仲間。地球市民という立場であれば、海外での医療活動も当たり前。困っている人がいたら「日本村」から「ベラルーシ村」へ行くだけのこと。「〇〇してあげる」というのは間違いであり、地球市民として当たり前のことなんです。そういう気持ちをそれぞれの職場で活かしてほしいと思います。

■姉妹都市ネパール・カトマンズ市への支援

仁田所長: 松本市は海外4都市と姉妹・友好提携をされていますが、そのうちの一つ、ネパールのカトマンズ市とは昨年が提携25周年であり、駒ヶ根訓練所が設立35周年だったこともあって、共催で「ネパールの架け橋」というトークイベントを開催させていただきました。松本市では、今回のネパール大地震の直後、すぐに駐日ネパール大使にお見舞いのメッセージを送られ、募金活動も始めていらっしゃいます。実は5月に駒ヶ根訓練所で派遣前の訓練を受けていてネパールに派遣予定の訓練生が呼びかけて募金活動をし、それを松本市へ寄付させていただきました。今後、姉妹都市カトマンズへの思い、そして集まった募金でどのような支援活動をされるのかお聞かせください。
(次頁に続く)

菅谷市長: カトマンズ市とは1989年に姉妹都市提携を結んでから、市と海外都市交流委員会、ヒマラヤ友好協会など、官と民が一体で交流を続けています。昨年、25周年の際には駐日ネパール大使やカトマンズ市の幹部の方々にご訪問いただきました。その翌年にこのような大災害が起こってしまい、まずはできることから始めようと募金をスタートしましたが、市民の善意で、当初の予定を上回る500万円が集まりました(6/8現在)。協力隊の候補生からも尊い募金をいただき感謝しています。市からの200万円と合わせて、被災者に確実に届けるために、現地のニーズを聞きながらできることをやっていきたいと思えます。

仁田所長: 協力隊訓練所は全国で駒ヶ根と福島県の二本松の2つですが、ネパールへ派遣されるJICAボランティアは駒ヶ根訓練所で訓練を受けます。協力隊事業が始まって早い時期にネパールへの派遣を始めており、隊員数は累計1,000人を超えています。松本市のネパールへのご理解とご支援は大変心強いです。松本市の支援が、直接・間接に協力隊事業にも良い影響を与えてくださっています。

■ 松本市の多文化共生・国際協力

仁田所長: 留学生数や在留外国人数が県内トップの松本市では官民共に国際交流・協力、多文化共生に力を入れて様々なことを行っていらっしゃいますが、今後はどのようなことを目指しておられますか?

菅谷市長: 「松本留学生応援ファミリーの会」が留学生をサ

ポートしてくれています。アットホームな雰囲気のでファミリーの一員として迎えてくれるので留学生は喜んでくれているようです。私自身、海外で現地の人に助けってもらったことにお返しなくてはと思うし、ぜひ多文化共生はしっかりやりたいと思っています。ありがたいことに松本市民は、海外の方を受け入れるという意識がとても高く積極的です。NPO法人に委託している多文化共生事業もあり、彼らも市に対して良い助言をくれます。2011年に国連軍縮会議を松本で行った際もたくさんの市民がサポートしてくれました。今後も外国人の数が増えてくると思いますが、助ける、のではなく、一緒にやっという意識、上から目線ではなく外国人も松本市民であり同じ地球に生きる仲間、地球市民なんだという意識が大切ではないでしょうか。

■ 人道都市松本からJICA駒ヶ根への期待

菅谷市長: 駒ヶ根訓練所が長野県にあってよかった、むしろ松本で訓練をやってほしかった。(駒ヶ根市の)杉本市長がうらやましいです。JICA駒ヶ根の様々な活動や事業を通じて市民が啓発される場をつくってくれていることに感謝しています。最近全体的に日本の若者が内向き志向だということが気になりますが、彼らを海外に送ってもらうことを期待したいし、お願いしたい。私はよく「人道都市松本に」と言うんですが、以前、緒方貞子氏(前JICA理事長)が「日本は経済大国ではなく人道大国にならないとダメ」と言っておられ、なるほどそれは大事なな、と。多文化共生もそうですね。そういった意味で世界を引っ張っていく日本であってほしいです。日本が評価されるのはそういうことではないでしょうか。

イベント告知 9月13日 JOCV50周年記念イベント @松本市

青年海外協力隊50周年記念企画:
世界と信州をつなぐ『国際×若者×青年海外協力隊』
～青年海外協力隊から信州の地域づくりへ～

日 時: 2015年9月13日(日) 14:00~17:00
会 場: 松本市Mウイング ホール
定 員: 300名
参加費: 無料(事前申し込み必要)



女優 酒井 美紀 氏

内 容:

第1部 青年海外協力隊50周年記念鼎談
『国際×若者×青年海外協力隊』

女優 酒井 美紀 氏(「なんとかしなきや!プロジェクト」メンバー)
独立行政法人国際協力機構 役員
SBCラジオパーソナリティ 武田 徹 氏

第2部 トークセッション

テーマ: 青年海外協力隊から信州の地域づくりへ
パネリスト:

元青年海外協力隊員で長野県内の地域おこし協力隊員
信州大学地域戦略センター准教授 林 靖人 氏
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所長 仁田 知樹 氏
進 行: SBCラジオパーソナリティ 武田 徹 氏

協力隊員
現地レポート
from ホンジュラス
かみじょうみか
上條美香さん
平成25年度1次隊
職種: 助産師
松本市出身(現職参加)



健康フェアには配属先のスタッフの他、レンピーラ県内の医師や看護師、看護学生が手伝いに来てくれました。(下の列、右から7番目が上條さん)

欧米を中心に輸出され、質が高いと評判です。もし見かけることがあればぜひ味わってみてください。

さて、私はホンジュラス西部のレンピーラ県、県保健事務所に所属し、母子保健を中心に、医療従事者への研

修を行っています。

今年5月、私の任地にて、ホンジュラスの保健分野隊員で、生活習慣病の知識の普及と予防を目的とする健康フェアを開催しました。内容は地元高校生とのラジオ体操のデモンストレーション、身体計測、栄養の講義、ホンジュラス人による寸劇などです。私は配属先のスタッフの調整担当でした。準備をほぼしない国民性なので私たち日本人は少しやきもきしていましたが、ホンジュラス人スタッフは当日大活躍!力を合わせれば何でもできるものですね!現地の人と一緒に、現地の人のために開催できたことはとても価値のあるものとなりました。この日のみんなの笑顔は忘れません。



コミュニティの健康相談役である、保健ボランティアへ母乳育児についての講義をしています。

残りの期間も短くなりましたが、大好きなホンジュラス人と一緒に、一つでも多く活動の足跡を残していきたいと思います。



シリーズ 世界から、地域で活躍！ 信州で活躍する元協力隊員に聞きました。

今回は18年度3次隊、
同期のお二人の登場です！



駒ヶ根市
気賀澤 博徳 さん
平成18年度3次隊
派遣国：ケニア 職種：文化財保護 出身：駒ヶ根市
現在駒ヶ根市役所 総務部 企画振興課にご勤務



Q1:現在の活動について教えてください。



駒ヶ根市役所職員として、国際交流と多文化共生を盛り上げる業務を中心に取り組んでおります。特に駒ヶ根訓練所と連携させていただくことが多く、不思議なご縁を感じております。国際交流という観点からも、駒ヶ根市が魅力ある街となっていけるように、自分なりに尽力していきます。

現在のお仕事の様子市内での『子どもまつり』にて「世界の笑顔のために」への物品回収とネパール震災救援金を受け付けているところ。

Q2:協力隊の経験で一番印象に残っていることについて教えてください。

印象に残る珍事は日々起きておりましたが(笑)、一番は任地変更があったことです。2007年12月末の大統領選挙に起因する内紛状態により、任地に戻れないまま退避帰国、任地変更となりました。築いてきた成果と人間関係を失うことになったのは、本当に辛かったです。



ケニアでの協力隊時代の同僚と。

新任地との折衝を重ねてくださったJICAケニア事務所、10ヶ月しか活動できなくても受け入れてくれたナイロビ博物館には本当に感謝しております。

Q3:今の活動に、協力隊の経験はどう生かされていますか？

今のところ、自身の経験を生かすどころか、周囲についていくのに必死です(汗)。協力隊時代に培った雑草根性で頑張ります！

Q4:これからの夢、チャレンジしたいことを教えてください。

先の話になりますが、定年退職後、途上国で行政サービス向上のお手伝いをしたいと夢見ています。夢を実現させるべく、日々の業務と自己研鑽に励んでいきます。



下伊那郡阿智村
森田 真弓 さん(旧姓：小野寺)
平成18年度3次隊
派遣国：メキシコ 職種：青少年活動 出身：宮城県



Q1:現在の活動について教えてください。

阿智村・清内路のふるさと村自然園で「子どもの森セカンドスクール」のスタッフとして、フリースクールの中学生に英語を教えたり、週末のセカンドスクールで子どもたちの自然体験活動をサポートしています。

Q2:協力隊の経験で一番印象に残っていることについて教えてください。

メキシコでは、2歳～18歳の様々な障害を持った子どもと一緒に養護学校で活動していたのですが、学校が地域であり知られておらず、つながるきっかけを作らなくて日本祭りを行いました。そこで子どもたちによる劇「ももたろう」を地域の人に発表した時、普段おどおどした子が大きな声で堂々たる演技、いつも無言の子が役に成りきって叫んだり、興奮して『愛している』とステージで叫ぶ子もいて、いつも見せない自分を思い切り表現していた姿、そして観客に感動が伝わりみんなが一つになれたことが印象的でした。



協力隊時代、メキシコでの養護学校での音楽授業風景

Q3:今の活動に、協力隊の経験はどう生かされていますか？

要請内容になかった日本祭りや、障がい児を含む多様な子ども達の劇団を企画し、仲間たちと実現していくうちに、イメージしたことは実現できると実感し、度胸もつきました。また、どんなときもありのままの自分を受け入れてくれたメキシコ人のおかげで、完璧でなくても素の自分で生きていけばいいということ、自分もまた人を丸ごと好きになって受け入れることを学んだと思います。メキシコ人は家族や仲間をととても大切にしている誕生日には必ずパーティをして皆でお祝いをします。メキシコ人から学んだ家族や仲間の大切さ、人とつながる力はこれからも生かしていきたいです。



子どもの森セカンドスクールにてスタッフと共に。

Q4:これからの夢、チャレンジしたいことを教えてください。

子どもの森セカンドスクールで子どもたちと一緒に、南信州ならではの体験を通して学んでいきたい。南信州を拠点として命の豊さ・つながりが感じられるような発信をしていきたい。またメキシコと日本の子ども達をつなげる活動ができたらいいなと思っています。

イベント・レポート

Event Report

4/19~
6/28

4月～6月 春の地域イベント、出展しました！

JICA駒ヶ根の青年海外協力隊長野県OB会と共同で出展している県内の地域イベントは年に10回以上。今年は5件が終了しました。4/19長野マラソン(長野市)、5/17国際友好平和祭Laula(塩尻市)、5/23国際交流フェスティバルin丸子(上田市)、5/30千曲万博2015(千曲市)、6/28こいこい松本-松本国際ふるさと祭り(松本市)、等々。各地で地域の元協力隊員らが活躍しています。体験談をお話したり、行った国のことばを紹介したり、民族衣装の試着、民芸品の展示など、楽しくJICAボランティアのことを伝えていきます。

もし皆さんのお近くでJICAブースを見つけたらお立ち寄りください。もちろん、将来JICAボランティアを目指す方のご相談も受け付けています。



5/31

第7回 クロスカルチャーデー in Komagane

駒ヶ根の良さを世界に発信していこうと始まったこのイベントも今回で第7回。当日は中米やアフリカ、西アジアなどの様々な国から来られたJICA研修員29名とJICAボランティア候補生21名で千畳敷カールの散策へ。山頂には青空が広がり、雪の白とのコントラストが非常に美しく映えた一日でした。研修員の中には初めて雪を見る方が多く、初めて触れる雪の冷たさに感動し、雪合戦をしたり、走り回ったりと、終始大興奮。

その後は駒ヶ根キャンピングセンターで市民の方との交流。日本文化の体験で、杵と臼で餅つきをしました。また、中沢おやき会さん協力のもと、信州名物おやきづくりも。その後、市民の皆さんと談笑しながら昼食をとり、自分たちでついた餅やおやきもいただきました。

帰り際、各研修員の名前を漢字で筆を使って書いたものをプレゼントすると、大喜びしてくれました。次回は8月に開催予定です！



千畳敷カールにて、雪を楽しむ研修員ら。

JICA駒ヶ根 中小企業海外展開支援

「中小企業海外展開支援事業紹介セミナーin上田市」にて、 中南米の魅力と県内企業の進出の可能性を紹介。

6月9日(火)上田市の信州大学繊維学部内のARECにて「中小海外展開支援事業紹介セミナーin上田市～ブラジル、パラグアイをはじめとする中南米への展開に向けて～」を実施。共催は、JETRO長野、八十二銀行、後援には長野県、関東経産局、中小機構関東本部、長野県中小企業振興センター、AREC、パラナ日伯商工会議所と県内や東信地域の中小企業の海外展開を支援されている様々な機関にご協力いただき、当日は30名を超える方々がご参加されました。



第2部 JETRO 紀井課長代理による発表

第1部の中南米におけるJICAの支援事業の紹介、第2部で昨年までサンパウロに駐在されていたJETRO紀井課長代理による日系企業の動きとJETROの支援、JETRO、八十二銀行、中小機構 関東本部の代表に出演いただいたパネルディスカッションまでの3部構成で実施。3時間半の長丁場でしたが、参加者から中南米の関税の問題など企業進出への具体的な質問もあり、各セッションの発表を熱心に聞かれています。

— 草の根技術協力事業 実施中! —

研修員が佐久穂町の高齢者施設を訪問

佐久穂町から提案された草の根技術協力事業「スリランカにおける高齢者ケア政策プラン・モデル形成プロジェクト」の日本での研修が5月に佐久穂町で実施されました。来日したのはスリランカ保健省、大学関係者など7名。長野県庁表敬訪問の後、佐久穂町高齢者介護施設、デイケアセンター、佐久総合病院などを訪問しました。



高齢者用入浴装置を体験する研修員

スリランカでは過去の日本と同様、高齢者特有の疾患が増加傾向にあり、現在の佐久穂町で行われている地域包括ケアをモデルケースとしてスリランカの政策に活かしてもらうために事業を実施中です。研修員は「日本人が高齢者を思いやる心を理解できた。また日本の高齢者施設は手すりや表示など高齢者に優しく設計されている。スリランカの施設に活かしたい」と感想を述べていました。

<JICA駒ヶ根では本件も含め4件(ネパール1件、フィリピン2件)の草の根技術協力事業を実施中です>

JICA長野デスクの窓から♪

●今号からコーナーを担当するJICA長野県デスク・国際協力推進員の榎本智恵子です。

推進員は日々、長野県庁東庁舎の「公益財団法人 長野県国際化協会(ANPI)」の一角にデスクを置かせていただいています。ANPIには、長野県在住外国人のための暮らしのサポーターさん(ブラジル、中国、タイ、フィリピン)をはじめ、9名のスタッフが所属しています。協力隊員時代よりも多国籍な環境から ANPIのメンバーと共に。



「信州の国際協力の窓」として、活動していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

●「信州国際塾」今年も行います!

2015年の第1回は、7月5日(日)長野県上田高等学校文化祭「松尾祭」とのコラボレーションです。

震災に見舞われたネパールの現状から、国際協力とは何かを今一度考えてみよう、という内容です。「ぼくらの国際協力～はじめのいっぽ」と題し、知ること・身近でできることを探していこうと思っています。この模様は次号でご報告する予定です。



JICAボランティア春募集にて「一日体験入隊」を行いました!

青年海外協力隊発足50周年にあたる今年のJICAボランティア春募集期間には、「体験談&説明会」を県内6カ所で開催しました。

最終日4月26日(日)は、日本に2ヶ所しかない訓練所の一つである駒ヶ根青年海外協力隊訓練所での「一日体験入隊」を実施。遠くは関西から、総勢122名がご参加されました。参加者の約70%が10～20代の女性で、全体の50%の方が「JICAボランティアに応募したくなった」とアンケートで回答していました。「人の役に

に立ちたい」「自分がかっこいい成長したい」「スキルを身につけキャリアアップしたい」そんな思いを次につなげる春の一日体験入隊でした。



「一日体験入隊」でスペイン語クラス体験

帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動
お疲れ様でした!!



平成25年度1次隊
にしわき ひでき

西脇 英樹 さん(飯田市)

●派遣国: エクアドル ●職種: 小学校教諭

●配属先: エクアドル チンボゾン県リオバンパチャンボ教育事務所



教育向け研修の様子

エクアドルのチンボゾン県にある教育事務所に所属して、現地の小学校の算数授業の質を高めるために活動をしてきました。小学校で公開授業を企画したり、現地の教員向けに算数研修会をしたり、子供達に算数や日本文化を紹介する授業をしたりしてきました。任期中に

は、日本の小学生とエクアドルの小学生が手紙やビデオなどを通して交流をすることもできました。

多くの人々に支えられ、エクアドルの人々に日本の教育や文化を伝えることができました。さらにエクアドルの人々からも、たくさんのことを学ばせていただきました。

現在は県内の小学校に復職して日本の子供達との学校生活を送っています。今後はエクアドルで得たことを日本の子供達や多くの方々に伝えていきたいです。



現地の小学生らと。

平成26年度4次隊(1名)&平成27年度1次隊(10名)

長野県出身 新ボランティア

行ってきます!!



平成26年度4次隊

※派遣国の事情により渡航が遅延されていましたが、7月に派遣となりました。

わた まりこ

派遣国: バングラデシュ

和田 真理子 さん(長野市)

職種: コミュニティ開発



バングラデシュで村落住民と行政の間に入り、住民へサービスが行き届くように働きかける活動をする予定です。村の住民がより良い生活を送れるように、住民と行政の架け橋になれるよう努めたいと思います。



たかぬし ちか

派遣国: マラウイ

高主 知佳 さん(松本市)

職種: 林業・森林保全



マラウイの森林局でGISを用いた森林管理・保全に関する業務を現地の方と一緒にしています。今まで大学・会社で学んできたことを活かし、現地の方々に少しでも貢献できるよう楽しみながら頑張りたいと思います。



やなぎさわ こうへい

派遣国: ラオス

柳沢 康平 さん(東筑摩郡朝日村)

職種: バレーボール



大学を卒業したばかりで、まだまだ未熟者ですので、途上国の方とともに成長していけたらと思っています。一方的に手助けをする援助ではなく、相手の価値観も尊重しながら、互いの良さを引き出していくような協力的な活動をしていきたいと考えております。



ひぐち ゆきな

派遣国: ドミニカ共和国

樋口 幸奈 さん(茅野市)

職種: 環境教育



小中学生を対象に環境教育の巡回授業を行う予定です。学生時代から発展途上国に興味があり、会社員として働き3年経った今、参加を決めました。現地の方々と一緒になって皆が笑顔になれるような活動を目指します。

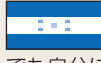


しみず めぐみ

派遣国: ホンジュラス

清水 愛 さん(塩尻市)

職種: 小学校教諭



世界の子どもたちの輝く笑顔を目で見てみたい、彼らのために少しでも自分ができることがあれば携わりたいと思い、志願しました。帰国後は、日本の子どもたちへの国際理解教育にも力を入れていきたいです。



しみず まや

派遣国: モロッコ

清水 マヤ さん(上田市)

職種: 障害児・者支援



インドにあるマザーテレサの施設でのボランティアをきっかけにし、協力隊応募を強く思うようになりました。現地では、自分のできることを探し、一緒に考えながら特別支援教育の大切さを伝えられたらと思っています。



くろだ たいと

派遣国: バヌアツ

黒田 泰斗 さん(長野市)

職種: 小学校教諭



発展途上国の人々のために働いてみたい、海外に住んでみたいという気持ちから応募しました。様々な経験を通して、一回り大きく成長して帰国したいです。また、日本とバヌアツを繋ぐ橋になればと考えています。



まるやま りきや

派遣国: ガボン

丸山 力矢 さん(松本市)

職種: PCインストラクター



子供の頃に見た世界の貧困層の人たちの映像がずっと心に残っており、今回の合格を機に参加を決めました。協力隊を通じて途上国の子供達や先生方とITの発展について一緒に考えながら貢献していきたいと思っています。



しもむら たまみ

派遣国: バヌアツ

下村 珠美 さん(松本市)

職種: 小学校教諭



帰国後、子どもたちに自分の経験を伝えたいと思い、現職で応募しました。バヌアツ共和国では、小学校で算数の指導改善と音楽の授業を担当します。現地の人との関わりを大切に、多くの経験を積んでいきたいと思っています。



さいとう ひであき

派遣国: ブラジル

斉藤 秀旭 さん(長野市)

職種: 日系日本語学校教師



大学時代、国際協力について学び、異文化理解に興味を持ちました。日系人の方々が、ブラジルで見事に築き上げた日系社会に触れて、日本での多文化共生社会構築のヒントを得られたら、と思っています。



にしむら ひろし

派遣国: カンボジア

西村 寛 さん(南佐久郡佐久穂町)

職種: 行政サービス



シニアボランティアとして、今まで培ってきた豊富な知識と経験が途上国の発展に活かされると信じ、同じ思いを持つ任地の人たちと、一緒に汗を流し、よりよい社会の実現に向かって思う存分、力を発揮したいです。

平成27年度1次隊 青年海外協力隊

青年海外協力隊

日系青年ボランティア

シニア海外ボランティア

Information JICA駒ヶ根 インフォメーション

派遣前訓練公開講座

参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

▶ JICAボランティア事業の理念と目標

内容：JICAボランティア事業の概要及びその活動
7月28日(火) 13:00～14:50
定員：10名 講師：小川 登志夫 事務局長（青年海外協力隊事務局）

▶ JICA事業概要

内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要
7月29日(水) 15:10～16:00
定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 職員

▶ 国際関係と日本の国際協力

内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する
8月12日(水) 15:10～17:00
定員：10名 講師：廣野 良吉 氏（成蹊大学 名誉教授）

▶ 世界の宗教理解

内容：世界の宗教についての理解を深める。
8月17日(月) 14:10～17:00
定員：10名 講師：斎藤 嘉文 氏（元文化学院 講師）

▶ 地球のステージ(コンサート)

内容：途上国で巡り合った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域での子供たちの明るくたくましい姿などを映し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。
8月21日(金) 19:00～20:50
定員：20名 講師：桑山 紀彦 氏（地球のステージ事務局）

▶ 異文化適応概論

内容：文化とは何か、理解とは何か、カルチャーショックとは何か、適応するとはどういうことかなどの異文化に入っていくにあたっての心構え
8月22日(土) 13:00～14:50
定員：10名 講師：関谷 雄一 氏（東京大学大学院 総合文化研究科 准教授）

※講師の都合等で実施日が変更になる場合がありますので、ホームページでご確認ください。
ホームページ <http://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

新スタッフ



カタヤマ ヒロユキ
業務課 課長 片山裕之

はじめまして。駒ヶ根訓練所に4月に着任いたしました片山裕之と申します。初めてこの地に参りましたが、高い山、深い緑、そして、美しい水の流りに圧倒されました。この大自然の中で、開発途上国と日本の両方の将来を開いていく若い人材の育成に関わる業務に就くことができ、幸せに感じております。

また、協力隊関連以外の業務ですが、長野県の方々と共に、国際協力を進めていく業務も担当させていただくことになりました。どうぞ、よろしくお願いいたします。



ナカタ マホ
語学担当 仲田真帆

4/1より駒ヶ根訓練所の語学班で勤務させていただいております、仲田真帆と申します。ボランティア経験もなく、個人的にも3月からIターンで長野に越してきたばかりで、わからない事ばかりではございますが、出来る限り尽力いたします。今後とも、よろしくお願い申し上げます。



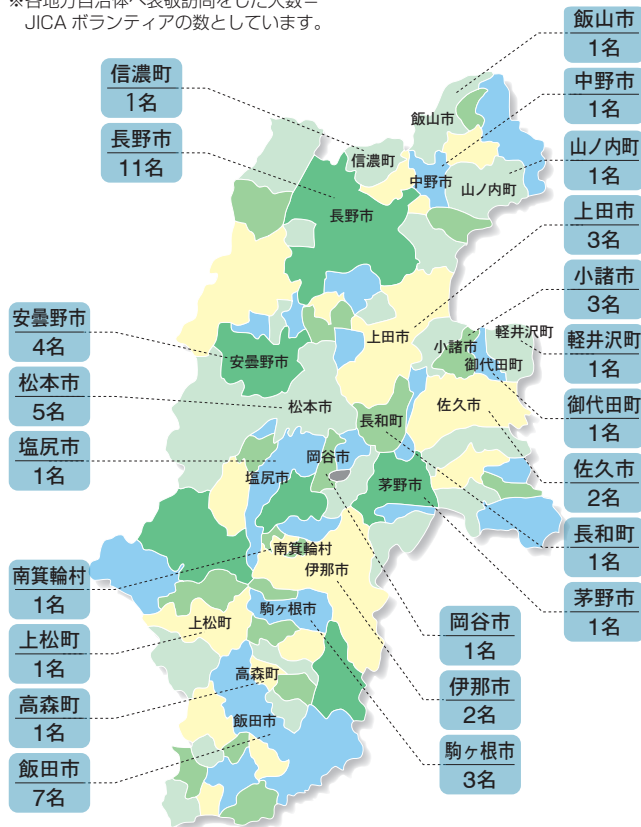
フクザワ トモミ
庶務担当 福澤友美

6/1より訓練所の庶務をしております福澤友美です。訓練所のある駒ヶ根で生まれ育ち、子供の頃から協力隊の存在は身近なものでした。プライベートでは日本語学習のボランティア団体に所属し、地域に住む外国人の生活のお手伝いをさせていただいています。このたび訓練所での勤務の機会をいただき、微力ながら国際協力活動の一端を担えることを嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

派遣中JICAボランティア

(平成27年5月31日現在)

※各地方自治体へ表敬訪問をした人数＝JICAボランティアの数としています。



長野県関係者 JICAボランティア派遣実績

平成27年5月31日現在

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| ①青年海外協力隊員
派遣中 52名
累計 931名 | ③日系社会青年ボランティア
派遣中 1名
累計 21名 |
| ②シニア海外ボランティア
派遣中 11名
累計 75名 | ④日系社会シニアボランティア
派遣中 1名
累計 4名 |

発行 独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp
<http://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!
<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン
☑ 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp
までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。